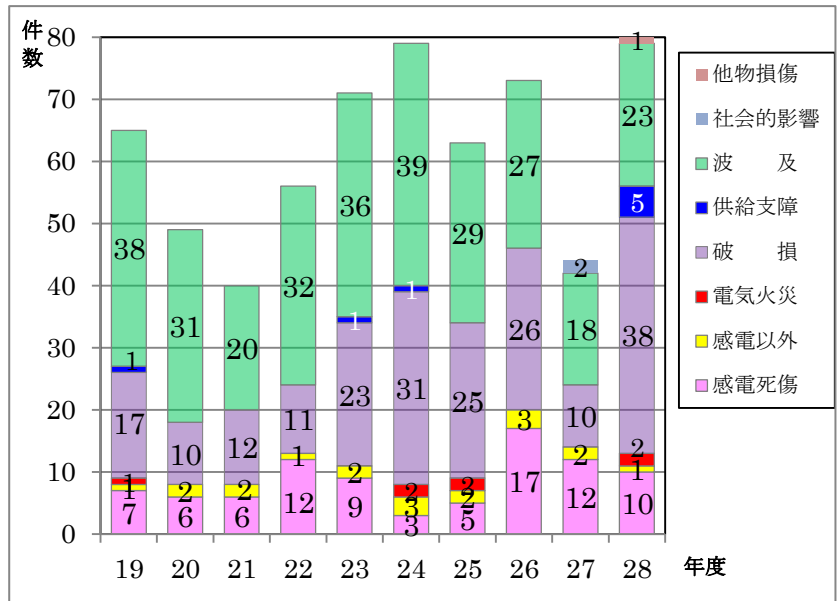


平成28年度九州管内における電気事故について【概要版】

【電気事故全体での分析】

- 平成28年度、九州管内の電気事故は80件発生（前年度比+36件）
- 感電死傷事故10件発生
うち死亡事故が1件
- 破損事故38件発生
自然災害により事故が多発
 （
 - ・ 4/14, 16: 熊本地震
 - ・ 9/20 : 台風上陸
 ）

グラフ1. 管内の電気事故件数の推移 ※水力の「異常放流」除く。



【種類別での分析】

1. 感電死傷事故

- 10件(10名)発生（前年度比-2件）
うち感電死亡事故1件（前年度：3件）
内訳（公衆感電7件、作業者感電3件）
- 足場工事に伴う感電事故が6件と多発

グラフ2. 管内感電死傷事故月別発生件数（過去10年の累計）

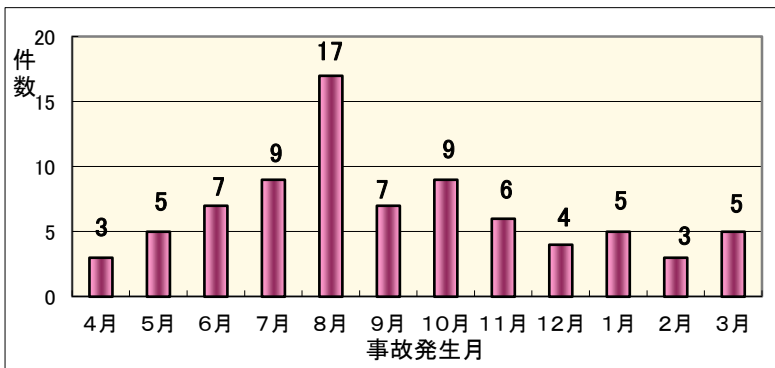


表1. 平成28年度管内電気事故の種類別件数

種類	区分	電気事業用電気工作物	自家用電気工作物	計
感電死傷		2 (5)	8 (7)	10 (12)
感電以外死傷		1 (1)	1 (1)	2 (2)
電気火災		0 (0)	1 (0)	1 (0)
他物損傷		0	1	1
破 損		13 (2)	25 (8)	38 (10)
供給支障		5 (0)	—	5 (0)
波 及		—	23 (18)	23 (18)
社会的影響		0 (1)	0 (1)	0 (2)
計		21 (9)	59 (35)	80 (44)

(注) () 内は前年度の件数

●事故例

<公衆>「被害者の過失」

事業場の外壁工事のための足場組立作業の際、電線防護管の取付けを待たずに足場組立を開始してしまい、隣接の高圧引込線に接触し感電死亡。

<電気作業員>「作業準備不良等」

特高変電所において、震災による健全性確認のため足場組立作業の際、誤って停電範囲外の断路器一次側端子に上腕部を接触させ感電負傷。

<公衆>「被害者の過失」

屋内電気室に設置しているPCB含有コンデンサを確認しようと、携帯電話付き自撮り棒で撮影した際、LBSのヒューズ部に触れ感電負傷。

<電気作業員>「被害者の過失」

鉄塔上で、廃止された送電線を再利用するための準備作業中、充電された他の送電線からの誘導電圧が発生している廃止送電線のジャン線をつまみ感電負傷。

2. 感電以外の死傷事故

- 2件(2名)発生(前年度と同数) ※過去10年を見ると毎年1~3件発生し横ばい傾向

<電気作業員>「作業員の過失」

空腫力盤内の母線コビス止めしてある電圧端子を緩めようとドライバーを端子に近づいた際、誤ってU相とV相を短絡させ、アークにより手や顔面を負傷。

3. 電気火災事故

- 1件発生(前年度比+1件) 需要設備の火災

4. 他物損傷事故

- 1件発生(前年度比+1件) 太陽電池 パネル飛散

5. 主要電気工作物の破損事故

- 38件発生 (前年度比+28件)
- 発電設備以外1件
電気事業用電気工作物 1件 (前年度比+1件)
- 発電設備の破損事故は37件 (前年度比+27件)
自家用電気工作物 25件 (前年度比+17件)
電気事業用電気工作物 12件 (前年度比+10件)
(火力、水力発電所の事故が多数)

火力発電所	14件	(前年度 4件)
水力発電所	13件	(前年度 0件)
風力発電所	7件	(前年度 2件)
太陽電池発電所	3件	(前年度 4件)
変電所	1件	(前年度 0件)
「保守不完全」	10件	(前年度 5件)
「地震」	7件	(前年度 0件)
「施工不完全」	3件	(前年度 0件)
「風雨」	2件	(前年度 0件)
「製作不完全」	2件	(前年度 2件)
「化学腐しよく」	2件	(前年度 0件)
「調査中・不明」	12件	(前年度 3件)

6. 供給支障事故

- 5件発生(前年度比+5件) 自然現象によるもの3件 等

7. 波及事故

- 23件発生 (前年度比+5件)
- 春から夏場を中心に発生
※5月に4件、6月に7件、8月に3件発生
※28年度は雷によるものが増加 (前年度比+4件)
※過去10年の傾向も夏場が多い傾向
- 「保守不完全」が全体の約40% (9件) と前年度比+1件
「雷」も全体の約30% (7件)
- 区分開閉器での事故が約60% (14件)、次に高圧引込ケーブルの事故で約17% (4件)

グラフ3. 管内波及事故の月別発生件数 (過去10年の累計)

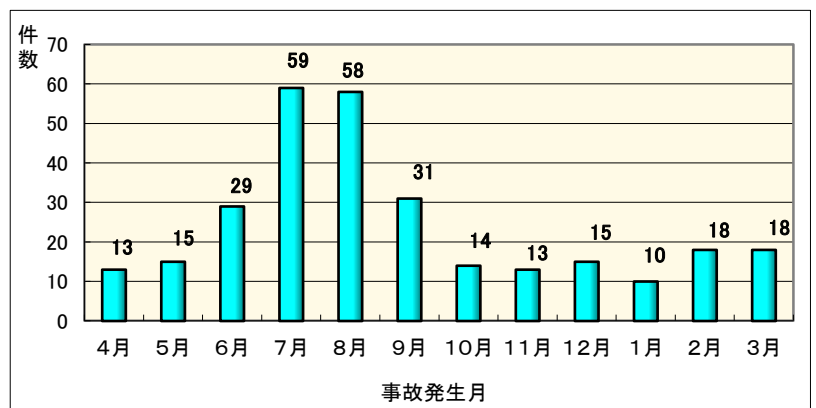
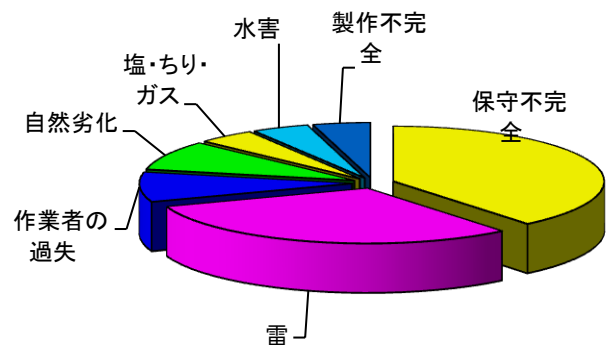


表2平成28年度管内波及事故の電気工作物別発生状況

発生状況	電気工作物	件数	前年度の件数
1	区分開閉器	14 (60.9%)	9 (50.0%)
2	高圧引込ケーブル	4 (17.4%)	4 (22.2%)
3	遮断器・LBS	2 (8.7%)	2 (11.1%)
3	断路器	2 (8.7%)	0 (%)
5	高圧コンデンサ	1 (4.3%)	0 (%)
	避雷器・リード線	0 (%)	2 (11.1%)
	継電器	0 (%)	1 (5.6%)
	送電線	0 (%)	0 (%)
	合計	23 (100%)	18 (100%)

グラフ4. 平成28年度管内波及事故の原因別発生状況



8. 発電支障、ダム of 異常放流、社会的影響事故なし